

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自の理念を掲げており、毎朝のミーティング後には職員一同でこれを唱和し、業務に取り組む際の訓戒としている。	○
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者自らが具体的例を示し、介護従業者との話し合いの時間を日常的に設け、理念の実践に向けて取り組んでいる。	○
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念に基づき、地域人との交流やホームでの出来事などを、ホーム便り(せきれい通信)又は手紙等で家族及び周囲関係機関に公開している。また、運営推進会議において、ホームでの生活やサービス状況を念入りに説明している。	○
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	どなたでも気軽に訪ねやすい様玄関にはスロープを設け、広い間口にしている。玄関や入り口の扉はいつも開放しており、花々や写真等を飾ってなごやかな雰囲気作りにも努めている。	○
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	一年を通して地元の祭りの参加や近隣地区婦人会の踊りの慰問、また近所の保育園園児や小学生の社会学習での訪問等地元の方々と積極的に交流を行っている。	○

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	近所の高齢者に気軽に立ち寄って頂き、来園された時には健康相談やバイタルチェックにも応じている。また、こちらが一方的に受身になるのではなく、こちらからも相談を持ちかける等、相互的な補助関係を持てるように取り組んでいる。	○	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価の意義を理解し、ミーティングでもケース検討の際には、評価項目を参考にする等活用している。また、より良いサービスの基盤としている。	○	
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では施設利用者の実態や今後の課題等を介護、看護両面から詳しく報告を行っている。その後、各出席者より意見や評価を頂き、そこでの意見は職員間で検討するなどしてサービスのさらなる向上の為の指針としている。	○	
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者自ら役場に訪問し、福祉課長や保険課長、又は町長との対談を設け、今後の福祉に対する要望や意見等の話し合いを行い、地域全体のクオリティアップを図っている。	○	
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	平成19年7月現在、地域福祉権利擁護事業を利用されている施設利用者が2名、成年後見人制度を利用されている方が1名おり、本人及び家族、スタッフに制度の説明を行っている。また、他の施設利用者の方及び親族、関係者にもこの制度の存在と意義を適宜説明させていただいている。	○	
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者及び職員は、研修やビデオなどで虐待に関連する事柄を学び防止に努めている。言葉遣いや振る舞いの仕方ひとつで虐待に結びつく場合があるので、お互いに注意深く観察するように心がけている。	○	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ時は細やかな点を含め時間をかけて説明して理解と納得を図っている。解約の際には規約に基づいて、十分な説明をさせていただき、退所後のケアの相談に応じるような形をとっている。また決定過程は明確に記録し同意書と共に厳重に保管、管理している。	○
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	生活のさまざまな場面で利用者との話し合いの場を設け、暮らしを続けていく上での要望や不満苦情等を聴取し、そこで出た意見については迅速に対応している。	○ 散歩や外気浴又入浴の際には、一人一人とゆっくり話す時間を努めてつくる様に心掛けている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の状況については緊急を有する場合をのぞき、面会や利用料支払いの時に報告を行っている。金銭管理については3ヶ月に1回の割合で出納帳の報告書を作成し、近況報告と共に家族に渡している。	○
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、不満、苦情、相談等を受け入れる窓口を設け運営に反映させている。また、家族、関係者が気軽に提言して頂けるような関係作りに積極的に働きかけている。	○ ホームの行事(家族会、ぶどう狩り等)にて、家族の参加をよ呼び掛け、コミュニケーションの中で様々な意見や要望を聴ける様な雰囲気作りに努めている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者は現場の職員の意見を尊重し、それは運営方法にも大きく反映されている。職員個人が運営者及び上司に意見を提言しやすいような開かれた環境作りに力を注いでいる。	○ 月一回ミーティングを2～3時間取って、その中で職員の意見を聴き、可能な事は一つずつ実効実現に移している。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	認知症ケアという職業柄、状況の変化で勤務体制が変動することは全職員が理解しており、適宜勤務時間の調節をするなどし、柔軟な対応ができる体制が確立されている。	○
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者や職員の異動や離職がある際には、事前に利用者へ伝え、変化に対する影響を最小限にするよう配慮している。	○ 利用者には各職員に対し、その方独自の観念があり、それを汲み取って状況に応じて臨機応変に対応させていただいている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	積極的に研修の受講を行っており、知識や技術の向上を目指している。また管理者が中心となり、日常業務や申し送り等で実技を交えながら助言や指導を行っている。	○	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	同地区内に点在する関係施設との交流を頻繁に行っている。交流を通して、それぞれの施設の事例等、有益な情報を交換することで互いにサービスの質の向上を図っている。	○	情報交換の際、利用者のプライバシーに関わる情報の漏出や個人情報の流出がないように注意している。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	運営者は職員個人を取り巻く環境に深く配慮しており、生活や仕事で受けたストレスを軽減するための環境作りに理解ある態度で示している。又、年に数回慰労会を兼ねた親睦会を行っている。	○	家族への理解を求める意味から、職員の家族を招待し(バーベキュー)和やかな時間を過ごす中で説明などを行っている。
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	各種研修の受講や他施設見学等行い自己研鑽を積める様進めている。	○	資格取得者には手当をつけている。幼児や、高齢者の家族と生活している職員には日勤帯で無理の無い勤務体制にしている。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	随時、管理長より電話又は直接面談し本人の意向を受容し安心安定に繋がるよう努めている。	○	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	随時管理長より家族の意見を良く傾聴し専門的立場からアドバイスを行い、問題や不安の軽減に努めている。	○	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容によっては、幅広く各種福祉サービスの情報を提供している。	○	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	契約前、には必ず本人と家族に当ホームに来園して頂き、生活の様子や雰囲気などを視ていただいている。	○	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の意志と自尊心を尊重し、できることは本人に行っていたきながら、個々の得意な分野で互いに支えあう関係作りに努めている。	○	農作物の作り方や料理法を聞いたりしながら、一緒に体を動かし収穫など喜んだりしている。(季節の野菜、団子作りなど)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の希望を受け入れながらも状況に応じて協力を依頼し、本人を共に支えていく関係作りに努めている。	○	本人の気持ちを最も感じ取れるのは昔から接してこられた身内だと思っているので、家族の協力を重要視している。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居前に自宅での生活の様子や家族との関わりを本人、家族両方から聞き取り、入居後はお互いの気持ちを配慮した対応、声かけを行い、より良い関係を維持していけるよう配慮している。	○	
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	環境が変化しても、本人の馴染みの人物との関係や場所を大切にし、ドライブなどで訪問するなど、できるだけ支援に努めている。	○	
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士が互いに協力し、支えあいながら生活を送れるように常に働きかけている。利用者同士の相性などの把握に努め、場合によっては職員が介入し、より良い環境作りの構築を目指している。	○	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ご家族の事情もあるが、サービスの契約が終了しても継続的な関係が続く事例がある。また、そういった関係をもてることは素晴らしいことと全職員が自覚しており、誠心誠意お世話させて頂いている。	○	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の希望を随時聞き取りケアプランに反映させている。聞き取りが困難な方については家族とも相談するなどその人らしく生活を送れるよう検討している。	○	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人又は家族から子供の頃からの生活暦や環境などを聞かせて頂きセンター方式のアセスメントに残している。	○	一度には全て聞き取れない為、数回に渡って本人に尋ねたり、家族の面会時などでの会話の中で聞き取りを行っている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ミーティングにおいて個別に状況を報告し、その時々で状態の低下が著しい方については繰り返し検討を行うなど、全員が安定と安心した生活を送れるよう努めている。	○	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントの際に本人家族から当ホームでの生活希望、要望を聞き取り、介護計画に繋げている。	○	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直し期間に対応できない変化が生じた場合は臨時的に緊急カンファレンスを行い、新たな計画を立ててきた。必要に応じて新たな介護計画を行っていききたい。	○	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別台帳に細かく記録を残し問題が生じた場合は台帳から原因や背景を検討し、介護計画の見直しに活かしている。	○	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者のQOLの向上を目的とした柔軟な支援を行っている。	○	友達の家、姉妹を訪問、家族の墓参り等本人家族の希望に即対応している。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	定期的に地元の消防団参加による防災訓練や交通安全指導員による交通安全指導、又近くの保育園児による踊りの慰問等様々な機関と協力しながら支援している。	○	
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	身体機能維持を目的としたPTとの連携や生活の安定の為、ケアマネージャや社会福祉協議会の係員と各サービスを利用するための支援をしている。	○	
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターより紹介のあった利用者については、家族や背景、環境等充分把握した上で本人のより良い生活支援のため協働している。	○	
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が心から信頼の置ける医師を担当医とすることを第一と考えており、家族の意見とあわせて適切な医師のもとで医療を受けられるよう支援している。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に関する専門医の受診を定期的に受け指示や助言をしてもらえる医師を確保している。	○	看護師、ケアマネジャーの同行のみならず、家族の同行に際しても専門医から詳しく認知症の説明などして頂いている。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師には日々のバイタルの変動から全身状態の観察、細かい変化など気づいた点は報告し処置や留意点などの指示をもらっている。	○	指示は全職員に周知徹底するよう申し送り簿に記入し毎日見るようになっている。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された入居者の状態を考慮した上で早期退院に向けての話し合いや協力を医療機関と行っている。	○	面会(入居者同行にて)に行き食事介助をしたりホームの様子を話したりしている。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時より本人又は家族から終末期の希望要望まで聞き取りを行い。アセスメントに記録を残している。又、身体の重度化、病状の悪化が進んだ際にもその都度確認し、希望に添える様対応している。	○	
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度の入居者については随時かかりつけ医、家族、スタッフ共に今後の病状の変化なども考慮したうえで話し合い悪化の予防策やこれからの要望等検討している。	○	
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	当ホームから別の居所へ移り住む際には情報提供書を必ず用意し身体面、精神面から記録し、その方が「その人らしく」を維持し安心して生活できる様努めている。	○	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者には常に優しい言葉遣いで接するよう強く心がけている。個人情報、管理者の指示で厳重に管理しており、又外部に漏れ出さないように配慮している。	○	個々の過去の職歴や趣味を話題に、その方を認め、賞賛し共に喜べるようなゆとりの時間を大切にしている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人個人で出来ることは可能な限りしていただくことで、自立支援を促している。また個人の意志を尊重し、自ら意思決定の場面を作ることで日々のストレスの軽減を図っている。	○	献立の本を見ながら食事の希望を聞いたり、洋服を一緒に買いに行ったり、本人の自己決定を大切にしている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースや価値観は多様であるということを全職員は理解しており、無理に合わそうとせず、可能なかぎり希望に沿うよう働き掛けている。	○	過去に夕方の入浴の希望があり実施した経験がある。レクリエーションは強要するのではなく、本人の意向を尊重している。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者がおしゃれをして喜びを感じるということは、QOL向上に繋がるということを重々承知しており、取り組んでいる。理容・美容も本人の意思に従って望む店や馴染みの店に行けるようにしている。	○	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入所時に本人より飲食の好き嫌いを聴取し楽しく食事をしていただけるよう配慮している。調理は基本的に職員が一任しているが野菜のした処理や、テーブル拭き、料理注ぎ等で利用者のお力をお借りしている。	○	調理の途中で利用者に味見をしていただいたりする等、調理の一部に携わっている。後片付けは、食器洗いを行い、たい方にはお願いしているが、基本的には食洗機にかけて衛生面にも留意している。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	誕生日はもちろんのこと定期的に本人の好物をお出しするなどそれぞれの嗜好の違いに準じて支援をしている。希望があればお酒、タバコ等の嗜好品も本人の身体状況を考慮した上楽しめるよう支援している。なお、嗜好品は厳重に管理するよう徹底されている。	○	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレへと自力で向えない方には定期的に声かけをし、気持ちよく排泄をしていただけるよう支援している。その際本人のプライドを傷つけないよう配慮した声かけ対応に心がけている。	○	排便の確認は排便チェックシートにチェックを行い排泄パターンを読み取るよう努めている。パットやオムツ等は、数種類使用しており個人に合わせたものを使用している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎朝、バイタルチェックを行い健康状態に異常が診られる方には入浴前に再度チェックを行い看護師の指示を受けている。入浴時には一人ひとりの状態や希望に合わせ、臨機応変に支援をしている。季節に応じてハーブや柑橘類を湯に入れたりして楽しんでいただいている。	○	
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼は1時間程度体を休ませて休息していただけるよう声かけ誘導を行い夜間は夕方から就寝に向けて、自然に穏やかなリズムに入れるよう考慮した場面作りを行っている。	○	お昼の休憩時は足の浮腫予防の為足を高くして休まれるよう支援している。夕方には夕涼みなどを行っている。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活のあらゆる場面において入居者1人ひとりに合わせた役割を持ち常に感謝の声かけと労をねぎらい充実した楽しい生活が送れる様支援している。	○	
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理者、職員は入居者が自分でお金を保持することの大切さを充分理解しており希望者は家族を交えて話し合いの上、所持されている。本人の意思を尊重して随時買い物など出来るよう支援している。	○	面会に来た孫へのお小遣い、おやつ購入、神社や寺参りでのお賽銭などに使用している。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所のスーパーへの買い物や公園への散歩、又神社へのお参りなど1人ひとりの希望に添って実施している。	○	
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間行事として積極的に実施している。花見、ドライブ、お祭り、ふるさとの訪問、墓参りなど随時ご家族や外部の方の協力を仰いで実施している。	○	二週に一回の水汲みと、組んで自宅を訪問したり、家族への声かけにより、心の安定を図ることにしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時には随時対応しており、より良い関係が築けるよう支援してる。家族や知人からの電話や手紙のやり取りは頻繁に行っている。	○	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	深夜帯を除いて、面会の日時は制限していない。いつでも訪問しやすい環境作りには気を配っている。(施設内の環境整備、イベント写真の掲示など)	○	利用者の感染症予防の為、マスク着用や手洗い消毒をおねがいすることもある。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者及び全職員が良く理解しており、十分な見守りとケアで利用者の安全と自由を保てるようにしている。	○	職員が基準(3名)より多く(4~5名)勤務することにより見守りを密にして、利用者の行動をなるべく規制しない様心掛けている。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯の為の夜間以外は鍵をかけていない。徘徊行動のある方については職員間で連携をとり、見守り、同行などを行っている。また近隣地域の方々にも理解を求めている。	○	携帯電話の常時使用
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	全職員で常に実施しており、利用者の安全で安心した生活支援に向けて見守りや声かけ対応に心がけている。	○	ドアにはそれぞれののれんが掛けてあり、夜間の見守りの為職員の頭が入るだけの工夫をしている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	物品の所持は一律ではなく個々の希望に応じ対応しているが、危険物などに関しては全職員が把握し常に気をつけ確認し安全に留意している。	○	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルによる周知徹底及び管理者または看護師による実技により緊急時の対処法を指導している。	○	入居者の個々の状況を把握し、今後発生する危険性のある事故を想定し対処法の訓練を行っている。(KYTの実施)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	しかるべき訓練を受けた管理者より定期的の実技によるガイダンスを受けている。	○	
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地元の消防団や警察より被災の際の避難方法や対処法などの指導を定期的を受けている。	○	緊急時の移動方等、防災ボランティアの研修を受けた職員より習っている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者の状態の変化やそれに伴って起こり得るリスクなどは随時家族に報告、説明している。また、担当医や看護師から指導を受けながらできるだけ今まで通りの抑圧感のない暮らしを送っていただけるように努めている。	○	
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝の健康チェックはもとより、日中に何らかの状態変化がみられた場合も即時チェックし、過去の症例と照らし合わせながら状態の変化、異常のサインの早期発見に努めている。記録は厳重に管理し、担当医、看護師と情報の共有を図っている。	○	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は介護記録簿の裏面に添付しており、担当職員と看護師は、各個人の薬の名前、効能を把握している。	○	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	飲食物の工夫、散歩やレクリエーションによる運動などで適切となる排泄パターンの確立に努めている。便秘が長く続く場合には医師や看護師の指示で投薬により排便を促している。	○	車椅子の方もドライブ(水汲み等)に誘い、便秘解消の手立てとして役立っている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	1人ひとりの状態に応じ、見守りや一部介助にて口腔内ケア(義歯、自歯みがき、うがい)をおこなっている。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日常的にその方の食事摂取量や水分量などを細かくチェックしていき、それをガイドラインとしながらも状態に合わせて十分な栄養を摂取できるよう努めている。また、状態異常に伴う食欲の低減時には、健康補助飲料(ブイクレスアルファ、ラコール)等を併用するなどして支援している。	○	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症の流行り廃りに関わらず、外出から戻った際には常に手洗い(流水と石けん)冷茶でのうがいを励行している。	○	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	担当の者が率先し気を使っている。食材はできるだけ早く消費し、余分な残りをださないよう工夫をしている。調理器具は頻繁に天日の下にさらすことで除菌を促し、場合によってアルコール消毒をして雑菌の繁殖を防いでいる。	○	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	老若男女、どなたでも出入りしやすい玄関をこころがけ、スロープや手すりの設置、写真や季節の花々を飾るなど安心して出入りできるように工夫している。	○	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の方からの意見も取り入れ、穏やかな雰囲気を醸し出すような、インテリアの配置や明かり調節を行っている。	○	季節の花を飾ったり、風鈴やスズムシによる癒しの工夫を行っている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	プライベートな空間も利用者同士が互いに語らえる空間も大切だと考え、環境には気を使っている。ホールには3人がけのソファを2つ設置したり、さまざまな場所に腰をかけて休める椅子を設置している。	○	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望を取り入れると共に、昔から馴染みのある家具などをご家族にお願いして、設置させていただいている。	○	
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	施設特有の匂い防止にと、換気には非常に気をつけている。日中は扉を開放しているため、換気は十分にできているが、夜間などは空気清浄機で空気のおよみを解消している。内部の気温は湿度を考慮して快適に過ごせる温度にするよう心がけている。	○	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	要所に手すりを設けたりできるだけ利用者の目線から使いやすい住環境にするよう配慮している。	○	
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	できるだけ入居者の持てる力を引き出せるよう、自立を促している。	○	
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	季節ごとに変化する景色を楽しめるよう、ホームの周りに花を絶やさないようにしている。良く晴れた日にはベランダでおやつを楽しんだりすることも頻繁に行っている。	○	実のなる木(ぶどう、いちじく、ブルーベリー、ジュンベリー、ポポーなど)散歩の途中で「つまみ食い」を楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

日中は可能な限り施設はしない。(現在まで一度も無い)1人ひとりの残された人生を愉快地、心豊かに過ごしていただく為に今までのライフスタイルを重視し、小さな変化にもすばやく気づける工夫として職員の数を増やし、見守り観察を重視している。いつも身近に職員が居て、声を掛ければすぐに反応してゆっくり話を聞いてあげられるよう、ゆとりをもったシフトを組んでいる。季節ごとの行事への参加、保健所や保育所や小学生との交流。買い物や散歩。草摘み(蒔、わらび)。海へ出かけたり、野菜をつくったり…。一度でも一回でも多くの笑い声と笑顔が見たくて、毎日楽しくにぎやかに過ごしております。